

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「近鉄難波駅『Time's Place』オープン」
- 2) 「にっぽん e 物産市」
- 3) 「舌診で健康診断」

1) 「近鉄難波駅『Time's Place』オープン」

近畿日本鉄道は 5 月 30 日、難波駅構内に新商業施設「Time's Place」をオープンした。来春スタートする阪神との相互直通運転にあわせて、近鉄難波駅改札内コンコース（地下 2 階）店舗のリニューアル工事を行っており、その第 1 期 6 店舗がオープンした。

「Time's Place」という名称には、古都奈良と近代の国際交流を支えてきた神戸の時が交わる、駅を利用する乗客の時間を大切にしたいなどの意味がこめられている。

第 1 期の 6 店舗は、飲食店 4 店舗とフラワーショップ、ブックストア。

これから、第 2 期オープンの 10 月に向けて旧売店を中心に工事が進められ、来年 2 月には全店舗が出揃うことになっている。

東京・関東地方に比べ、関西はそれほど「駅ナカ」が盛り上がっていない。今回オープンした Time's Place も直結している既存の地下街と大きくは変わらないが、関西初のイリーのカフェがオープンしたり、無料の休憩スペースができたことは近鉄ユーザーにとってはプラスかも。

来年の阪神なんば線開通で、この辺りも大きく変わるのだろうか・・・

2) 「にっぽん e 物産市」

経済産業省が 2008 年度に立ち上げを企図しているインターネット上の仮想商店街の仮称。地方の農家など小規模生産者は民間ネット商店街に出店しようとしても費用が 30 万円ほどかかってしまい、年間数十万円程度の年商しか期待できない農家にとっては、出店は夢の話であった。そうした小規模生産者を集めることで販路拡大を助け、地域活性化につなげることが狙いである。

公募で選んだサイト運営業者が生産者を発掘し、全国各地の消費者や外食産業、小売店などにつなぐ。買い物代金の決済や配送サービスのない簡易型商店街を想定し、購入希望者は生産者と直接契約し、決済を行う。

この e 物産市で売上げを伸ばした農家などが、決済や配送などのサービスが充実した民間商店街に移る「ゆりかご」の役割を果たせるとされている。税金での立ち上げ・運営となるので賛否両論はあるが、百貨店やスーパーが地方の特産や少数生産品などを掘り当てることに

なれば良い形が構築されそうだ。初心者向け、手軽、簡易といったところを上手く活用し民間ネット事業との差別化が必要だ。

3) 「舌診で健康診断」

東洋医学で「舌診」という、舌で全身の状態を知る方法がある。これには、素人でもできる自己チェック法もある。

まず、舌に溝ができている場合、舌の粘膜の再生力が低下して溝ができることがある。胃腸が弱っていることが主な原因で、食生活を見直し、消化の良いものやバランスの取れた食べ物を採ることが良いとされる。漢方で体を温めるといわれるショウガ、納豆、鶏肉等を採るのも良い。

舌の表面に白く付いている舌苔（ゼツタイ）も見る。舌の表面は細かい突起で覆われ、じゅうたんのよう構造になっていて、そこに食べカスや細菌などがついて舌苔ができる。舌の表面を毛羽立てて、突起の長さが2、3ミリあるようなら胃腸が悪くなっているか、口の中の乾燥などが考えられる。舌の表面をこすりすぎると粘膜が傷つくので禁物。

舌の先端だけが赤いときは、のどが弱くなっていることが多い。風のひき始めの可能性があるので、うがいなどで予防に努めると良い。舌がつるつるの状態は、体に必要な鉄やビタミンB12などの体に必要な物質が不足していることが原因だ。疲れやすい、だるいなど貧血の症状も出るようであれば病院を受診する。

こうした、舌や口の中の年一度の無料検診が全国の病院に広がりつつある。

かつては西洋医学一辺倒だった医学界に、近年はこのような東洋の知恵もより活用されてきている。これからの高齢化社会では、さらに多くの側面からの健康へのアプローチが求められることだろう。